

50th
the 50th anniversary
HIROSAKI UNIV. CO-OP

2013

弘前大学生生活協同組合創立50周年記念誌

組合員・弘前大学と 共に歩んだ50年

つながる元気、ときめきキャンパス。



弘前大学生生活協同組合

弘前大学生生活協同組合 創立50周年を祝って

弘前大学医学部教授 佐藤 敬
弘前大学長



弘前大学生生活協同組合の創立50周年を心からお祝い申し上げますとともに、長きにわたって弘前大学の学生・教職員の教育・研究と日常生活にご支援をいただき、関係者の皆様に心より感謝します。大変ありがとうございました。

昭和38年2月に創立以来、この50年間に組合員のニーズや社会の変化に対応して生協の業務は、当時とは比べものにならないほど充実してきたことと思います。今やすべての学生・教職員にとって、弘大生協の存在なくして大学の業務が存続できない状態にあるものと理解しております。まさしく50年の歴史をもって、大学と

共に歩んでいただいた結果としての、生協の今日の姿に対して満腔の敬意を表するものです。

私事になりますが、私が弘前大学に入学した昭和44年当時には、既に生協の基盤はほぼ完成していたように思います。大部分の教科書や文房具の購入と、月曜から土曜のほぼ毎日の昼食は生協のお世話になりました。生協のお蔭で、少なくとも大学生としての日常はすべて学内で完遂することができたのは間違いありません。その意味で、私の今日あるのは生協のお蔭と言っても良いと思います。

また、昭和44年当時の食堂はプレハブでしたが、今では2,000人以上収容の大食堂となりまし

た。正確な調査による結論ではありませんが、県内では、これだけの規模の食堂はここだけではないかと思えます。これに限らず、現在の生協の業務は多岐にわたっているようですが、それだけに、学生・教職員の生協への依存度も一層高くなっているものと想像されます。今後も大学と生協は協調・連携しながら、特に学生生活の支援を力強く続けていくことができれば幸いです。折しも私たちは大学改革の真ただ中に置かれていますが、次の50年間にも、栄えある弘前大学の歴史を共に創造していくことができるよう願うばかりです。

50周年を迎えて 新たな歩みのために

弘前大学農学生命科学部教授 荒川 修
弘前大学生協同組合理事長



弘前大学生協同組合は1963年2月に創立され、今年で50周年を迎えました。学生と教職員の強い想いによって出発した弘大生協が、50年間事業活動を継続することが出来たのも、組合員と生協職員の努力と大学関係者の理解や支援によるものです。感謝しながら共に祝いましょう。

40周年の時は国立大学が法人化する前年で、新たな時代に向けてビジョンとアクションプランを作成し、サリジェ店の建築とシェリア店の改装を行い、組合員がより利用しやすい店舗を実現してきました。そして今年は医学部会館の改修に伴うフェリオ店の改築も終わり、さらに秋からは文京地区の学生会館の改修が始まり、食堂、レストラン、シェリア店が改築されます。来年度以降には保健学科の改修に伴うClover店の改築も予定されており、これで全ての店舗が改築されて、きれいな新店舗の中でより快適に利用できる

ようになります。古い施設はその費用のほとんどを大学（文科省）の予算に頼っていましたが、大学関係予算が不足する中で、これらの改築には弘大生協自身が億単位の投資を行う予定です。このような多額の投資が出来るような経営組織になったのも、組合員と生協職員が力を合わせてアクションプランを着実に実行し、それが組合員に支持されて利用が伸長したからに他なりません。また、それが弘前大学法人から理解されて様々な支援を受けてきたことにもよります。

多額の投資の原資は、これまでの組合員の利用による積み立て・財産の取り崩しと、将来の組合員の利用を見込んだものであり、新しくなる店舗の中でより質の高い事業運営を行い、今後10年、20年とさらに事業を継続して行かなければなりません。50年前の弘大生協は、食事や教科書などの大学生生活に必要な物資を手に入れる

ために設立されましたが、今ではそれらの物は満たされ、長年の願いであった快適な施設も実現されようとしています。しかしながら組合員の生活は厳しくなる一方であり、学生組合員は勉強や就職の不安を抱え、さらに世界の環境や資源、食、貧困などの問題はますます深刻になっています。教育と研究の場である大学の中の弘大生協は、新たな社会を担う人材を送り出すために、弘前大学に協力しながら学生組合員の生活、学びと成長の支援をさらに進めていきます。生協はあくまでも人と人との協同、関係の組織であり、物の供給を通じた学びや関係作りのような供給事業の活用と、組合員の参加による様々な体験や感動のコトを提供する活動に力を入れていきます。生協の原点である「一人は万人のために、万人は一人のために」に立ち返り、これからの50年に向けて力を合わせて歩んでいきましょう。



この50年

1955年度

「学内に生協を」という声が出はじめる

1959年度

「生協設立センター」が生まれるが短期間で解散

1960年度

生協設立運動の意識高まる

1961年度

「生協設立準備委員会」結成（5月）／初の即売会（10月）／クラス情宣、請願署名（10月）

1962年度

設立、一時見送りとなる（4月）／北溟寮大会において「生協設立決議文」採択（6月）／評議会に向けて賛同者を募り、出資金を集めはじめる（7月）、評議会中止／全学討論集会で4月設立を確認、事業計画作成（11月）、学生大会（11月）、臨時評議会、五条件を結ぶことにより4月設立を認可（12月）、創立総会（2月）

1963年度

第一回総代会／全協（現、大学生協連）に加入／「生協のしおり」第一号発行

1964年度

医学部供給所設置／学生会館設立運動に取り組む

1965年度

食堂設立運動／大学より、プレハブ食堂の設置承認

1966年度

北溟寮に店舗設置／旧第一食堂、教育学部前に設置／書籍店舗新設／日協連（現、日生協）に加入

1967年度

設立5周年「生協祭」開催／書籍取次店問題

1968年度

旧第一食堂拡大／医学部食堂設置／朋寮店開設

1969年度

第二食堂設置／厚生会館についての生協案発表／本部封鎖により初の欠損金（95万円）

1970年度

厚生会館実現に向けて「全学連絡会議」結成／「会館建設全学準備会」結成

1971年度

新食堂（現、文京食堂）開設

1972年度

喫茶部開業（現、E-Space）／医学部食堂移転拡張／旧第一食堂解体／書籍部拡張

1973年度

狂乱物価と品不足から臨時総代会開かれる／寮店舗閉店、自販機設置／購買部店舗拡大／書籍部平均7～8%の割引率実現／「弘大生活防衛対策連絡会議」を結成／6.23学内統一行動に参加／創立10周年（庄司薫講演会など）

1974年度

医学部学生会館実現、一階に生協店舗新設／青森市民生協（現、コープあおもり）設立に対して人材派遣／全国的に「新大学管理法」制定を反対、廃案に

1975年度

学生会館実現確定／県内5生協が結集し、COOP牛乳開発／弘前市民生協（現、コープあおもり）設立準備を支援

1976年度

学生会館実現、購買部・書籍部・喫茶部の新店舗開設／「利用高割り戻し」を始める／弘前市民生協（現、コープあおもり）誕生

1977年度

スコララムに生協事務室開設／喫茶スコララム移設拡張／水害により医学部店舗に浸水。被害額1,600万円にのぼり、出資配当利用高割り戻し・15周年企画のほとんどを実施できず／弘前市民生協（現、コープあおもり）に人材派遣／第一回国連軍縮特別総会（SSD-1）への代表派遣事務局へ参加

1978年度

一般消費税導入反対運動に取り組む／第一回国連軍縮特別総会に手代木渉理学部教授（第10代学長）を派遣（事務局として活動）

1979年度

組合員センター完成／医学部店舗拡充／医学部教職員向けに弁当供給開始／灯油値上げ反対運動に取り組む／第1次中期計画に取り組む

1980年度

「諸物価の高騰をおさえ、学生・教職員の生活と勉強条件を守るための五項目署名」に取り組む／青森県連に人材派遣、被爆者援護法請願署名に取り組む／購買・書籍部の営業時間延長／文化企画運営委員会正式発足

1981年度

組合員センター1階を店舗化／購買・書籍部拡大／第2次中期計画案に着手

1982年度

第二回国連軍縮特別総会（SSD-2）に田辺良則農学部教授を派遣（事務局として活動）／「柴田翔を囲む会」を開催／一言カード・システム始動／食堂拡大生協理事会案発表、「食堂施設の早期拡大要請署名」に取り組む／第2次中期計画発表／創立20周年をむかえる

1983年度

食堂洗い箸併用開始／食堂レジ後払い制度開始／医学購買書籍店舗拡張／平和ランチ出食

1984年度

10円コピー開始／切手・葉書取扱い開始／みちのく・青銀CD設置（組合員センター1階）／文京会館店昼休み閉店廃止

1985年度

旅行業・下宿アパート斡旋事業開始／現代巨匠絵画展開催／文京配達弁当開始／生協規制反対運動

1986年度

キャンパスカルテ・講義ノートづくり／第2回先輩のすすめる一冊の本／売上税反対運動／灰谷健次郎講演会／お好みコーナー開始

1987年度

教官のすすめる一冊の本／員外利用許可及び大学入札資格取得／文京会館店改装／第3次中期計画作成／留学生によるお国自慢料理パーティー

1988年度

第三回国連軍縮特別総会（SSD-3）に松原邦明教育学部教授を派遣（事務局として活動）／第3次中期計画発表（1988～1992年）／文京学生食堂拡張基本プラン発表

1989年度

文京教職員委員会発足／消費税廃止署名2,038名集約／ピースナウ代表派遣（教育学部小枝君）／生協組合員参加システム開始（各種委員会作り）／医療短大開設（現、保健学科店Clover）／消費税導入→赤字決算

1990年度

文京学生食堂改装、食堂椅子テーブル50%変更／入試制度の変更（分離分割・B日程）／食堂全面禁煙決定・開始／センター店改装（1階のワンフロア化、2階整備）

1991年度

牛乳パック回収、クリーンデー、清掃工場見学等環境問題に取り組む／文京学生食堂営業時間延長実現（午後7時まで）／カフェテリアメニュー体系への変更／文京食堂椅子テーブル50%変更、食器変更実現

1992年度

牛乳パック回収、クリーンデー、清掃工場見学等環境問題に取り組む／文京学生食堂営業時間延長実現（午後7時まで）／カフェテリアメニュー体系への変更／文京食堂椅子テーブル50%変更、食器変更実現

1993年度

レストランスコララムオープン（6月）／文京食堂増築オープン（8月）／30周年記念絵画展（12月）／第4次中期計画（1994～1996）策定準備／創立30周年をむかえる

1994年度

医学部食堂の椅子テーブルを20年ぶりに更新／米の不作により食堂ライスに輸入米とのブレンド米使用／ラーメン価格値下げ／外国語コミュニケーション事業スタート、TOEIC無料体験セミナー開催／チャリティー絵画展の収益金20万円をユニセフへ寄付

1995年度

阪神淡路大震災発生、カンパ活動に取り組む／C-スタッフによる食堂クリーンキャンペーン実施／店舗委員会企画として組合員対象のボウリング大会／レストランメニュー試食会実施

1996年度

POSレジ導入／文京食堂ホールにて新学期セール開催／医地区福利厚生施設改善プランを医学部へ提出／総合リビング事業開始

1997年度

組合員センター店を閉店して、機能を文京会館店に統合（8月）／パンショップ移転／大学の学部改組（農学部→農学生命科学部、理学部→理工学部）／割り箸リサイクル開始／消費税3%から5%へアップ

1998年度

教職員訪問活動実施、約200名と対話／弘前大学生協ホームページオープン／プロバイダー事業開始／アメリカの未臨界核実験に対する抗議文をアメリカ大使館へ送付（理事会決定）

1999年度

ペットボトルリサイクル開始／JR発券端末の設置／和書・洋書のインターネット検索サービス開始／弘前大学創立50周年／2000年問題で基幹システムを更新

2000年度

名称を「弘前大学消費生活協同組合」から「弘前大学生協同組合」へ変更／1,217万円の赤字決算（累積赤字3,883万円）／ピースナウ広島へ代表2名派遣／プレイガイド店・医学部食堂リニューアル実現／文京食堂厨房の床補修工事実施

2001年度

第五次中期計画発表（2001～2005）／医学部食堂をリニューアル、ビューフェ化／正規職員希望退職者を募り4名退職／当期剰余金280万円を確保し黒字決算に

2002年度

大学と共同して「公務員受験講座」実施、127名受講／2年連続黒字決算／パンショップ移設面積拡大して混雑緩和／ピースナウ沖縄へ代表1名派遣／サッカーワールドカップ日韓共同開催

2003年度

医学部保健学科店Clover拡張実現／医学部店昼休み閉店廃止／新学期活動に大学からのインターンシップ生初受け入れ／弘大生協の3つの使命と5つのビジョン決定（ミッション&ビジョン2003）／創立40周年をむかえる

間の年表

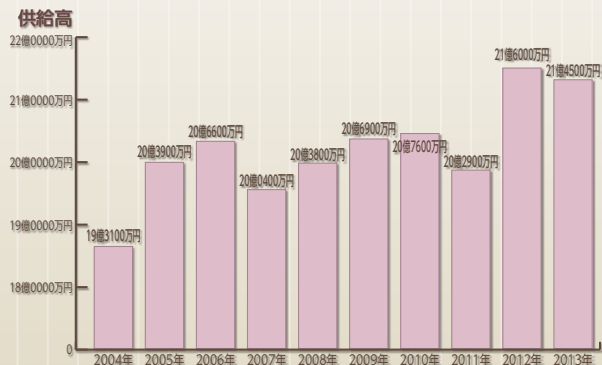
2004

- 11年ぶりに累積赤字（最大4,800万円）が解消
- 大学からアルバイト紹介事業、駐輪管理事業、弘前大学出版会の取次業務を受託
- 農場産米を食堂で使用開始
- 農場米を使用した日本酒「弘前大学」を開発し発売開始
- パンショップ20時まで営業開始、保健学科クローバー18時まで営業開始
- 学生委員会中心のビジョンナビゲーションセミナー（現「スタートアップセミナー」）開始
- ピースナウ沖縄へ3名派遣

2005

- スコーラム拡張、文京食堂席数増
- 大学会館広場に椅子テーブルを設置
- 学祭にて地域の皆さんとフリーマーケット開催、町内会長との交流会開催
- 学生生活応援塾開始、読書マラソン開始
- ミールカード導入※1
- ピースナウ広島へ代表2人、ピースナウ長崎へ代表1人派遣

※1 ミールカードとは食堂・生協オリジナル弁当利用前払い制度でバランスの良い食事をしっかりとってもらうために作られたものです。



2006

- 4月キャンパスコンビニ「サリジェ (Cerisier)」を生協資金で建設し大学に寄付。営業開始
- 文京食堂の土曜夜営業開始、サリジェの日曜営業開始
- 環境基準KESの規格取得開始

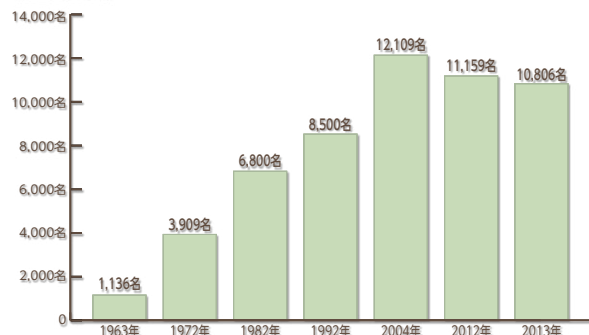
2007

- 社会人基礎力講座（現「学生のためのマナー講座」）開講
- 3月会館店を改修し、プレイガイドと統合。大学会館内にて「シェア (SHAREA)」として営業開始
- 大学オリジナル商品アップルエール、アップルデザート販売開始
- 退職給与満額積立、不良資産の償却完了で、完全な健全経営へ
- ピースナウ沖縄へ2名派遣

2008

- 3月安全安心な生協マンション「パーシティハウス西が丘」完成
- 文京食堂厨房施設改修（お弁当工房、パン工房、検収庫設置）
- たびショップ出張旅費精算、学研災業務委託開始
- 医学部会館店プチリニューアル。学生から名称を募集「FERIO (フェリオ)」となる
- ピースナウ沖縄へ代表1人派遣
- 非接触式IC内蔵のMember's Card (組合員証) を導入
- 大学オリジナル商品「アップルケーキ」販売開始

組合員数推移



2009

- 就活サプリ塾開催
- 英会話講座ACE開講
- 生協管理物件2000室を超える
- 学内放置自転車リサイクル活動開始
- あっぴれす（教職員向け生協通信）発行開始
- 生協メールマガジン開始
- 学生委員会が学長賞を受賞
- 「ミッション&ビジョン2003」を「ミッション&ビジョン2009」に改定、それに基づくアクションプラン2013を策定

2010

- 生協寄付講座「読書論」開講
- 10月生協ツイッター開始
- たびショップの旅行専門店化
- ミールカードの未利用分、翌年度へ繰り越し可能に
- ピースナウ沖縄へ1名派遣

2011

- 3月11日東日本大震災発生 後期入試中止、生協は停電下での営業、炊き出しを行う
- 入学式4月27日実施
- 震災による学事変更および物資不足、取引業者被災、燃料不足に伴い生協事業にも大打撃
- 新生活用品倉庫（仙台港）が被災し、商品受注の停止を行う
- 弘前大学講義「食育概論」へ生協も協力
- 生協FaceBookページ開設
- ピースナウ広島へ1名派遣

2012

- 新入生に電子マネーPICOの事前加金可能に
- 原発事故発生による電力不足のため、省エネ店舗運営を行う
- ミールカード利用、電子マネーPICOの利用増で昼食、食品系の利用増加
- 教科書購入支援サイト「テキストイト」運用開始
- 店舗業務の改革推進着手（基本四原則の取り組み）
- ピースナウ沖縄へ1名派遣

2013

- 生協創立50周年記念事業として「弁当の日」を500人以上の参加で開催。ドイツ環境視察に学生代表を派遣
- 学生総合共済が新入生比率加入90%を超える
- 医学部フェリオがリニューアルオープン
- 文京地区施設改修に伴い、シェア、スコーラム、文京食堂を仮店舗営業
- コラボ弘大にコラボショップ「絆」オープン
- 生協仕様マンション・パーシティハウス紙漉完成
- ピースナウ沖縄へ1名派遣
- 2014年3月文京食堂「Horest (ホレスト)」完成
- アクションプラン2019の策定に着手

ビジョンとアクションプランの振り返り

いきいきした
キャンパスライフを
実現する



シェアリアオープン



フェリオオープン

「キャンパスアメニティの充実」

2006年、生協が建設した建物を大学へ寄付し、「サリジェ (Ceerisier)」としてオープン (P9参照)。翌年には会館店を改修、会館店とプレイガイドを統合して大学会館内に「シェアリア (SHAREA)」として営業を開始しました。

2013年6月、医学部会館 (現医学部学生支援センター2号棟 交流館) が改修工事を終えて、新FERIO店がオープンしました。

店舗スペースが拡がり、医学書、医学部特有商品の提案の充実を使命に、これまで以上に組合員のキャンパスライフを積極的にサポートしていきます。

医学部食堂「Pomme (ポム)」もオリジナルのビュッフェスタイルをそのままに、2014年4月から新店舗で営業しています。

また文京地区大学会館、文京食堂も施設改修工事を経て、文京食堂がHorest (ホレスト) として、8月にScorum (スコラム)、SHAREA (シェアリア) がそれぞれリニューアルオープンしました。

「安全安心な住まいの提供」

地域の大家様の協力をいただいて、学生に24時間365日安全で安心して生活できる住まいを提供する事業をすすめています。

生協管理物件 4棟 60室

生協管理物件 244棟 2841室

(2014年10月現在)



パーシディハウス川端

「どんなことがあっても学業を継続できるように」

先輩が新入生の大学生活準備をサポートする「新入生サポートセンター」では、大学生活を安心して過ごしてほしいとの思いから学生総合共済を提案しています。その思いが新入生・保護者の方々に届き、2013年度の学生総合共済への加入は90%を超えました。たすけあいの輪がさらに大きくなりました。



新入生サポートセンター

仲間に学生総合共済を知らせる活動～給付ボード

一カ月間の給付件数や特徴的な事例などを学生組合員や大学に広くお知らせするために、給付ボードを作成し、学生食堂入り口に掲示しています。ボード作りを始めてから6年目、毎月一度学生と職員が協力しながら作っています。



給付ボードの作成

Topics

日本酒
弘前大学の
誕生

2003年(平成15年)秋頃、田中店長が三浦酒造の社氏三浦文仁さんと知り合いになり、意気投合し、弘大独自の日本酒の醸造・販売について話し合われたそうです。2、3日後、2人そろって研究室を訪ねて来られ、相談を受けました。弘大独自と言うからには弘大の徽章を前面に表示の方がよいだろうと提案しました。しかし、大学事務局は徽章の使用を許可しないだろう。頼まれても一介の農場運営委員ではどうしようもない。徽章の使用許可が取れたら又相談しよう。1回目の会合は弘大生協が事務局と折衝することとし、終わりました。この様子を村山・齋藤・工藤先生にお伝えしたところ、徽章の使用はまずダメだろうと思っていました。翌日、田中さんから徽章使用OK、講義終了後に二人で何うから真剣に考えて欲しいとの電話がありました。既に、弘大生協は学用品等で徽章の使用許可を得ていたことが功を奏したようでした。

(工藤啓一先生著「弘前大学 知の散歩道」弘前大学出版会より引用)



ビジョンとアクションプランの振り返り

充実した
学びあいの
環境を築く

大学とともに 教員講座、公務員講座

「なりたい自分」を目指すための意識を強め、4年間かけてサポートをします。講座関連については、講義形式だけでなく、同じ目標を持つもの同士の学びあいを大切にしながら一人一人に合ったプランを提案します。



公務員講座募集ガイダンス



教科書を購入する新入生



フレッシュフェスタの様子

テキストについて

新入学時の「フレッシュフェスタ」での一斉購入やIC組合員証を利用した電子マネーPicoの入学事前加金により、2013年春には、1万9千冊、4千万円を超える利用がありました。また、教員や大学職員と連携し必要な教科書・参考書を提供することや、学生主体による教科書会場の運営により大学生協ならではの勉強支援を行うことができました。今後は更に学生が安心して必要な書籍を購入できる環境を整えていきます。

読書について

読書推進活動として、読書マラソン委員会と連携した企画「目玉本」（読書マラソン委員会の毎月の推薦本）やオリジナルフェアを実施しました。また学生委員会が主体で運営する「読書会」を実施し、組合員への読書の楽しみを共有する場を提供しています。

2011年には新入生に向けて「読書のすすめ」を大学と一緒に発行し、その後は生協で隔年で発行しています。



学生委員会主催「読書会」でのピリオバトル



生協ではサリジェ店にて日本酒「弘前大学」を販売しており、ホームページでも地方発送を承っております。日本酒の収益金の一部は弘前大学の「学生支援事業」に寄付されています。



ビジョンとアクションプランの振り返り

充実した
学びあいの
環境を築く

「スタートアップセミナー」

キャリア支援

入学時に描いている「なりたい自分」を実現していくために、大学生活の先輩の経験を伝える場面として「スタートアップセミナー」を開催してきました。2003年から始まったこのセミナーは、2013年には4日間開催で500人を超す参加者になりました。

「進路」の問題ではなく、どのように大学生活を過ごしていくかを考える場面になっています。

「スタートアップセミナー」のほか、パソコンのスキルアップのための「パソコン活用講座大学生生活応援塾」チームワーク力やコミュニケーション力を鍛えるための「学生のためのマナー講座」英会話講座「ACE (エース)」を開講しています。

語学学習支援

「グローバル人材の育成」「英語力のアップ」を目標に、大学でもTOEICのスコアアップのための学生支援を行い、カレッジTOEIC、公開TOEICの受験者は増加してきています。2013年は中間でTOEICの受験は300人を超えています。生協では学内でのTOEIC・TOEFL試験の運営を行っています。

2009年から開講した英会話講座ACEはネイティブスピーカーの講師による年間通してのサポートを実現してきました。2013年には新入生250人の申込による23クラスを開講。受講生による英字新聞の発行、語学研修へのモチベーションアップにつながっています。



「英会話講座ACE」

就職活動支援

就活サブリ

全国連帯の大学生協の強みを生かした「就活サブリ」の取組は、就職活動前の学生たちが直接企業の人事担当の方から話を聞ける、学内への出前の説明会として行われています。就職活動を体験した上級生がスタッフとして会場運営を行い、後輩のための会場づくりや心構えを伝える場になっています。

合同企業説明会

大学の学生就職支援センター主催の「合同企業説明会」(例年2月開催)の運営事務局は、弘前大学生協SHAREAに設置されています。



「就活サブリ」

Topics

大学
オリジナル
商品



ひろだいアップルケーキ



ひろだいアップルデザート



アップルスナック



りんごキュービー

ビジョンとアクションプランの振り返り
**充実した
 学びあいの
 環境を築く**

オープンキャンパス

6,000人を超える高校生が集うオープンキャンパスには学生委員会や新生入生対応をする大学生生活アドバイザー、パソコン講座のスタッフなど学生と職員と一緒に高校生を迎える活動を行っています。

2009年からは、総合受付や資料配布を大学と一緒にしています。

その活動が評価され、学生委員会に学長賞が授与されました。



学長賞受賞



オープンキャンパスの様子

学生同士の学びあいの支援

「学生自身の経験を自分の言葉で伝える」という活動が、旺盛に行われるようになってきました。就職活動の変化等によりサークル活動も1、2年生が中心となり、直接さまざまな上級生の経験を知る場面が少なくなってきています。

生協には公務員、教員、就活サポーターとしてイキイキと活動を語る上級生や新生入生に向けての活動をしている大学生生活アドバイザーはサポートセンターでの活動を通じて一人一人が成長することにもつながっています。



就活サポーター



大学生生活アドバイザー

2006年、これまで食堂ホール内で営業していたパンショップが、人文学部前にキャンパスコンビニ「サリジェ」としてオープンしました。サリジェは生協が建設し、弘前大学に寄付を行った施設ということで全国でも画期的な取り組みとして紹介され、全国の大学関係者、生協関係者が視察に訪れました。

現在サリジェは、食堂の混雑を緩和する昼食提供の役割と大学キャンパス内にあるコンビニとしての使命を担い、1日の平均客数3,500名、朝8時から夜8時までの12時間営業を行っています。



Topics
**サリジェ
 大学へ
 寄付**

ビジョンとアクションプランの振り返り

教育・研究の
発展に
なくてはならない

研究室活動サポート・出張旅費精算業務の受託

2008年度より、大学の出張旅費精算業務を受託しています。関係部署との打ち合わせを日々重ねながら、より効率的な大学運営に貢献できる取組を続けています。

2008年 文京地区・学園町・農場を対象にスタート
2010年 本町地区も含めた全学対象の業務に変更

年度	件数	金額 (円)
2010	10375	4億 5775万
2011	10135	5億 5088万
2012	11242	5億 8974万
2013	11598	5億 8807万



◀精算業務で使用しているシステム



◀たびショップ

研究室活動サポート・注文管理センター機能強化

2010年秋より、校費対応部門「注文管理センター」を発足し、医学部及び文京キャンパスの教職員対応の強化に努めてきました。

2012年からは新しい技術や新商品の情報発信源として、毎年「情報機器総合展示会」を開催しており、2013年には来場者300名を超え、毎年多くの参加を頂いています。また研究支援の一環として、より充実した研究推進のため、商品・サービスの提供にとどまらず、活用セミナー等も開催しております。

今後も教職員の書籍、パソコン、旅行等についての要望を実現するために生協職員が教職員を訪問する取り組みを行っていきます。



情報機器総合展示会



教職員向けiPadセミナー



研究室でのサポート対応

Topics

各店愛称の由来

Scorum スコラム 大会館2階レストラン

1972年、喫茶文化全盛期に、schoolとforumを合わせた愛称として名づけられました。

Clover クローバー 医学部保健学科購買店

2003年医学部保健学科店が拡張させる際に、保健学科学生によって名づけられました。

Pomme ポム 医学部学生支援センター食堂

2001年医学部食堂がビュッフェスタイルにリニューアルされた際、組合員からのネーミング募集により「弘前のりんご」をイメージする意味で医学部教員により名づけられました。

Cerisier サリジェ 文京キャンパスキャンパスコンビニ

2006年文京食堂内にあったパンショップが、キャンパスコンビニとしてリニューアルオープンしました。サリジェとはフランス語でさくらを意味する「cerisierスリジェ」を日本語読みした愛称になっています。

ビジョンとアクションプランの振り返り

社会と文化の発展に貢献する

地域社会との協同：地域の授産施設の商品の販売、地域の食材を食堂店舗で販売

文京食堂店では、学生や学会などで弘前にいらっしゃるお客様に、少しでも地元の食材を食べて欲しいとの思いから、「地元野菜の小鉢」の提供や、パーティメニューに地元食材を積極的に利用しています。

地元野菜の小鉢は、旬の時期に合わせて「とまと」や「キュウリ」、「春菊」「アスパラ」などを60円～80円で提供しました。パーティメニューでは、「ホタテ」や「根曲がり竹」「だけきみ」「そばもやし」、そして「りんご」など、青森ならではの食材を使用するようにしています。特に根曲がり竹を焼いたものは、他では食べられないと好評をいただいています。



豊かな地域文化に触れる



白神自然観察園見学



「弁当の日」ポスター



▲竹下和男先生



禅林街散策



座禅体験

弘前大学と地域の関係作り

弘大生協創立50周年記念事業として、「ひろがき弁当の日 in ひろさき」を弘前大学と弘前大学生協が主催となり青森県、弘前市の後援、多くの地域の方々の賛同を頂き2013年10月12日青森県武道館にて開催しました。

参加人数500人以上の大規模なシンポジウムとなり、大学生はもちろん、幼稚園・保育園の保護者関係者の方から、「食」を推進する企業の方まで幅広い年代、職業の方々に参加いただきました。

SHAREA (シェア&たびshop) 大会会場購買書籍キャリアアップ旅行店

2007年大会会場店をプレイガイドと統合しリニューアルオープン。学生からの案でShareとAreaの造語でSHAREAとなる。

Sumica スミカ 総合リビング店

2009年組合員センター1階に移設時に愛称募集。理工学部の学生がキャラクター「すみかり君」と合わせSumicaという名前に決定となる。

FERIO フェリオ 医学部学生支援センター購買書籍店

2008年医学部会館にあった生協店舗をリニューアルした際、組合員からの愛称募集で決定しました。フェリオとはエスペラント語で「休日」の意味。

Horest ホレスト 文京学生食堂店

2013年施設改修を経てリニューアルオープン。組合員からの名称募集によりHorest(ホレスト)となりました。HOME(ホーム)とFOREST(森)の造語でREST(休息)という語も含み「家のようにくつろげる大きな森の存在であってほしい」という願いが込められています。

ビジョンとアクションプランの振り返り
**環境負荷の低減と
 環境保全活動を
 活発に進める**

弘大生協の環境活動は、学生が主体となった活動を活発におこない、年々進化を遂げていることが最大の特徴です。その結果、環境意識の高い学生を社会に多数送り出すことができています。

重点課題
1

KES活動を通じたエコキャンパスの実現



◀ 2008年KES
ステップ1を
認証取得

▶ 弘大生協環境マネジメント
マニュアル第7版



重点課題
2

地域と連携したエコ活動



◀ 2011年2月
青森県とレジ袋
削減協定を締結
しました



▲ 将来の環境も考え県生協連のブナの植樹に
毎年参加

重点課題
3

学生が進めるエコ活動



◀ 割りばしを製紙
工場へ送り
リサイクル

学内放置自転車を▶
春に回収し翌年
リサイクル供給



重点課題
4

学生が進める学内環境の保全



▲ 学内のボトルキャップ回収で
白神山地保全活動を
エコリパブリック白神、
青南商事さんと推進



弘前大学生協の学生組織①

「学生委員会」

人と人とのかかわりを重視したとりくみ

【学生委員会とは】

生協学生委員会は、生協理事会の下部組織として、学生組合員の要望を集め理事会や店舗に伝え、学生組合員の要望を実現する組織です。現在学生委員会は100名を超え、受験生新入生を温かく迎え新生活をスムーズに過ごすことが出来る活動や、店舗活動、総代さんと一緒に進める組合員活動、平和や環境、広報宣伝など様々な活動を行い、学生自身の成長スキルアップにつながる活動を行っています。

学生委員会1年間の活動

学生委員会はいろんな分野の活動を行っており、学生の目線から、組合員を巻き込んだ活動ができるように意識して取り組んでいます。活動において楽しんでもらうことはもちろん、組合員の生活に良い影響を与えられることも意識しています。具体的な活動としては、食育に関する取り組みと、環境に対する取り組みです。食育に関しては、大学生の食生活が不規則になりやすいという現状から取り組む必要が出てきた活動です。栄養を意識してもらう活動や、食材の産地を訪問する活動を通して、自分の食生活を見直してもらうきっかけ作りを行っています。また、環境に関しては、普段意識しにくい環境への配慮を呼びかけることで、意識を高めてもらおうという取り組みをしています。ペットボトルキャップ・割りばし回収や、植樹祭などから、環境への意識を高めてもらいたいという想いで活動しています。その他にもさまざまな活動を行ってきました。これらの活動の根源にあるのは組合員の生活をより良くするという想いです。今後もこういった活動を継続していきます。

「新学期活動～人との出会いを大切に～」

学生委員会の活動の中で最も規模が大きいのが「新学期活動」です。主に弘前大学に入学する新入生とその保護者を対象にした活動となっています。新入生は「友達作り」「一人暮らし」「勉強についていけるか」など、大学生活をスタートするにあたって様々な不安を抱えています。そういった不安を少しでも解消してもらい、しっかりと大学生活をスタートさせてほしいという想いで私たちは新学期活動を行っています。この活動では人とのつながりを非常に重視しています。企画の中で知り合う同学年同学部の友達、弘前大学生の先輩である学生委員会のメンバーなどの交流を通して、いろんな知見を得ることも貴重な経験です。いろんな人と交流する中で、いろんな考えに触れつつ、大学生活の疑問不安を解消できる、そんな新学期活動を今後もすすめていきます。



【新学期】スタートアップセミナー
同じ学部の先輩から話を聞き、大学生生活のイメージを持ってもらいます。



【新学期】Welcome party
毎年多くの新入生が参加しています。友だち作りへの関心は高いようです！



【新学期】ミールDEごはん
食への知識や、自炊の方法などを伝え、意識を高めてもらうのが目的です！

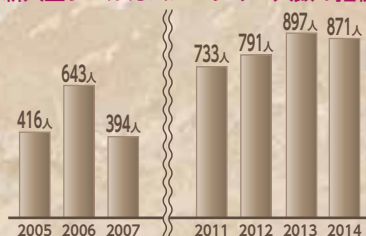


【環境】植樹祭
自分たちの手で木の苗を植えています。



【食育】ダイコン産地体験会
実際に野菜を収穫して、食への関心を高めてもらう活動です！

新入生ウェルカムパーティー人数の推移



学生委員会人数の推移



弘前大学生協の学生組織②

「新学期.com」

学生が先輩の立場に立った新学期のモノコトを提案

since
2003

【新学期.comとは】

新学期.comは、入学が決まった新入生やその保護者に対し、毎年春に開設する「新入生サポートセンター」において大学生生活の準備をサポートしている組織（大学生生活アドバイザー）の中心メンバーです。年間を通してアドバイザーの育成や研修をし、大学生生活アドバイザーと合わせて総勢約70人で、新入生が安心して大学生生活を始められるような活動に取り組んでいます。

弘大生であれば入学の際、大学生協の加入や住まい契約、ミールカードや教材の購入などの入学準備を、ほとんどの学生が“新入生サポートセンター”で済ませたと思います。私たち新学期ドットコムは、そのサポートセンターにおいて、大学生生活の一步先を歩む先輩学生（大学生生活アドバイザー）として、入学準備や大学生生活全般のアドバイスをし、新入生と保護者の持つ不安や疑問の解消につなげています。新入生・保護者とコミュニケーションをとりながら、自分たちの持つ知識や経験を伝え、新入生に大学生生活をイメージしてもらうことに注意して、大学生生活に必要なモノ・コトを提案しています。学生には自分の住むところがあり、普段は大学で講義を受けて勉強をし、お昼は友達と学食でごはんを食べ、放課後はサークルやアルバイトに打ち込む、自分たちの後輩がそんな当たり前の生活ができて、より充実した大学生活を送ってもらえることが私たちの願いです。

私たちは、新入生保護者のみなさんにしっかりと提案ができるよう、新人アドバイザーの育成に力を入れています。

特に研修会では、住まい形態ごと、学部ごとの情報を共有し、提案する商品・サービスの必要性を理解し、先輩学生の体験談とあわせて提案ができるように何度もロールプレイングを重ねてきました。

結果として2013年は新入生の90%に学生総合共済（生命共済）に加入いただき、大学生活における様々なリスクに対し安心を提供できたと思います。

今後も、アドバイザーが新入生に大学生活を伝えていっているように、私たちの中でも“先輩から後輩に”をモットーとした取り組みを目指していきます。



新学期ドットコムとアドバイザー
前例オレンジジャンパーが新学期.com
後例が大学生生活アドバイザー



新入生サポートセンター(2013年)
毎年、新学期(2月~4月)に文京食堂内に開設している。



アドバイザーの提案①
新入生・保護者双方とコミュニケーションをとりながら大学生活を始める上での不安を解消している。



アドバイザーの提案②
サポートセンター来場者に学生自身の経験を伝えながら住まいの提案をしている。



アドバイザー研修会の様子
アドバイザーの提案に必要なモノ・コトを習得してもらうために.comが研修会の企画・運営をしている。



受験生保護者説明会の様子
.comが参加者に対して大学生活のことや入学準備に必要なものの情報を説明している。
(50周年記念会館「みちのくホール」にて)

文京キャンパス 〒036-8224 青森県弘前市文京町1

SHAREA シェリア

電話：0172-33-3742
FAX：0172-33-8973
内線：2139 or 2140
Eメール：b-shop-h07
@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：
書籍・文具・パソコン
／各種資格取得支援

SHAREA たびショップ

電話：0172-37-6480
FAX：0172-35-7816
内線：2143
Eメール：tabi-shop-h07
@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：
国内・海外旅行
／学生総合共済

Horest ホレスト

電話：0172-35-1868
FAX：0172-32-6174
内線：2142
Eメール：shoku-h07
@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：
カフェテリア・麺

Scorum スコーラム

電話：0172-32-8778
FAX：0172-33-8973
内線：2141
Eメール：shoku-h07
@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：
ランチ・デザート・
ドリンク

Sumica スミカ

電話：0172-31-7237
FAX：0172-31-7105
内線：2069
Eメール：sumai-h07
@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：
アパート・下宿等の相談
・紹介

弘前大学生協の学生組織③

「講座スタッフ」

先輩が後輩に学び伝え、双方がスキルアップできる

since
2005

【PC講座スタッフとは】

PC講座スタッフは新生生のパソコンスキル向上のために、スタッフ自ら講師となってPC活用講座「大学生生活応援塾」を開講したり、パソコンの故障やトラブルに対応する学内窓口「サポートデスク」の運営を行ったりしています。「大学生生活応援塾」では受講生のパソコンスキルだけでなく、コミュニケーションスキルの育成にも取り組んでいます。

応援塾講座は、毎年前期の毎日4コマ、5コマ、放課後の時間に約15回を開講し、約400人の受講生にスタッフが講師・GA（グループアドバイザー）として一緒に活動しています。スタッフ、受講生共々和気藹々としており、よい雰囲気で開催しております。この受講生の中から次年度の応援塾スタッフも多々出ており、先輩が後輩に引き継いでいくと言った精神で活動しています。

応援塾スタッフは、毎週土曜日の全体ミーティングを開催し応援塾の今後の活動を話し合っています。講座スタッフの組織づくりで、重視していることはミーティングも気安い場づくりということ意識しています。全体ミーティングの場では真剣に討論をする場づくり、時にはワークを行い楽しむ場づくりなど様々な場づくりをすることによってメリハリをつけて組織力を高めています。

毎年、応援塾講座は新生生のために大学生活に必要なパソコンスキル・プレゼンテーションスキル・コミュニケーションスキルを身につけてもらうために、講座プランを作成しています。新しく入ってくる後輩のために、より良い講座を作っていくために今後もスタッフ一同精力的に活動していきます。



サポートデスクの様子
講義を欠席した際のフォローやトラブル対応をしています。



講義の様子①
グループリーダーのもと、グループで学び合いをしています。



全体ミーティングの様子



講座スタッフ
学部・学年・PCスキルも様々ですが、一致団結して講座づくりをしています。



講座の様子②
全ての講座が終わるころにはスタッフと受講生がとても仲良くなります。

医学部キャンパス 〒036-8212 青森県弘前市南塘町1-1

Cerisier サリジェ

電話：0172-34-4622
FAX：0172-34-4623
Eメール：cerisier-h07@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：お弁当・おにぎり・パン・ドリンク・お菓子・日本酒「弘前大学」他

本部経理店

電話：0172-34-4806
FAX：0172-36-6965
内線：2138
Eメール：honb-h07@hirosaki.u-coop.or.jp

コラボショップ 絆

取扱商品：お弁当・ランチ
麺・パスタ他

FERIO フェリオ

電話：0172-35-3275
FAX：0172-35-3293
内線：6895～97
Eメール：m-shop-h07@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：書籍・文具・食品・ドリンク・パソコン他

pomme ポム

電話：0172-35-3275
FAX：0172-35-3293
内線：6895～97
Eメール：m-shop-h07@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：定食・麺・デザート他

Clover クローバー

電話：0172-35-3275
FAX：0172-35-3293
内線：6895～97
Eメール：m-shop-h07@hirosaki.u-coop.or.jp
取扱商品：お弁当・パン・ドリンク・おにぎり・お菓子他



弘前大学生協同組合創立50周年記念誌
組合員・弘前大学と共に歩んだ50年



弘前大学生協同組合

初版 2013年9月
再版 2014年10月

〒036-8224 青森県弘前市文京町1
TEL : 0172-34-4806
FAX : 0172-36-6965
honb-h07@hirosaki.u-coop.or.jp